

The introduction of the synonymous words will also be found useful. This branch has been more fully carried out in the second part, or Index.

In Romanizing the words, the effort has been in every case to express the sound as pronounced by the most cultivated natives; and the system of orthography, with a few variations, is that generally adopted by the students of the language in Japan.

The printing has been accomplished under many difficulties, especially from the want of accented vowels and a proper supply of capital letters which could not be procured in Shanghai, and had to be manufactured under many disadvantages. This will account for the want of uniformity and irregularity observable.

Notwithstanding every care, not a few typographical errors are observed; but as most of them are unimportant and a little attention will enable the reader to rectify them for himself, it is not thought necessary to publish a list of errata.

With these apologies and explanations, the author commits this work, the fruit of nearly eight years of unremitting labor, to the kind indulgence of those who are making the language their study, and if he can in this way, lend them a helping hand out of some of the difficulties which he had so often to encounter alone, he will feel that his labor has not been in vain.

J. C. H.

Shanghai, May, 1867.

IV. 『和英語林集成』研究文献目録

- 1 1950 平林武雄「『和英語林集成』の語彙と定義」(『明治学院論叢』18)
- 2 1960 平林武雄「ヘボン編『和英語林集成』第3版について」(『高橋源次博士還暦記念英語英文学論集——言葉と文学』、篠崎書林)
- 3 1961 飛田良文「東京語の連母音『アウ』の成立——和英語林集成を中心として——」(『国語学研究』1、東北大学)
- 4 1963 飛田良文「和英語林集成におけるサ変複合動詞の上一段化」(『国語学研究』3、東北大学)
- 5 1964 飛田良文「和英語林集成におけるハ行四段活用動詞の音便形」(『国語学』56)
- 6 1964 磯貝俊枝「明治初期における漢語の研究——『和英語林集成』を通じて見た漢語の推移——」(『日本文学』22、東京女子大学日本文学研究会)
- 7 1964 飛田良文「和英語林集成の『和英の部』について」(『文化』27-4、東北大学)
- 8 1965 飛田良文「和英語林集成の語彙の性格——江戸期節用集との比較から——」(『文芸研究』50)
- 9 1966 松村 明『和英語林集成』初版復刻版(北辰)の解説
- 10 1966 飛田良文「和英語林集成の諸版について」(『和英語林集成』初版復刻版、北辰)
- 11 1966 飛田良文「明治大正時代の漢語の連濁現象」(『東北大学日本文化研究所研究報告』2)
- 12 1967 高橋重人「ヘボン和英辞典に表れた『新訳全書』の用語」(『日本英学史研究会研究報告』70)
- 13 1967 飛田良文「東京語の連母音『オウ』の成立——和英語林集成を中心として——」(『国語と国文学』181)
- 14 1968 新山茂樹「『和英語林集成』に見えるサ変複合動詞について——初版・三版における異同事例の考察」(『国学院雑誌』69-10, 12)
- 15 1968 渡辺 実「J.C.ヘボンの人と業績」(『言語生活』200)
- 16 1968 飛田良文「明治大正期における漢音呉音の交替」(『近代語研究』第2集)
- 17 1970 亀井 孝『和英語林集成〔再版〕復刻版』(東洋文庫)の解題
- 18 1970 松村 明『洋学資料と近代日本語の研究』(東京堂出版)〔9. 収録〕
- 19 1971 古田東朔「ホフマンとヘボンの相互影響」(『蘭学資料研究会報告』22)
- 20 1973 新山茂樹「『和英語林集成』に見える漢字表記について——初版・三版における異同事例の一考察——」(『今泉博士古稀記念国語学論叢』、桜楓社)
- 21 1973 岡本 勲「和英語林集成における動詞の標記」(『国語国文』42-12)
- 22 1973 岡本 勲「『和英語林集成』と『日葡辞書』(研究編)」(『文学部紀要』8-1、中京大学)

- 23 1973 岡本 勲「『和英語林集成』の初版より再版への改訂に就て」(『文学部紀要』8-2、中京大学)
- 24 1974 岡本 勲「『和英語林集成』と『日葡辞書』(資料編)」(『文学部紀要』8-3、中京大学)
- 25 1974 岡本 勲「『和英語林集成』に於る漢語見出の取扱に就て」(『文学部紀要』8-4、中京大学)
- 26 1974 岡本 勲「『和英語林集成』に於るハ行四段活用動詞の終止連体形」(『文学部紀要』9-1、中京大学)
- 27 1974 岡本 勲「『和英語林集成』の品詞表示」(『文学部紀要』9-2、中京大学)
- 28 1974 岡本 勲「『和英語林集成』の形容詞」(『国語国文』43-9)
- 29 1974 松村 明『和英語林集成』三版復刻版(講談社)の解説
- 30 1975 岡本 勲「ヘボンの日本文法体系—助詞をめぐって—」(『文学部紀要』9-3、中京大学)
- 31 1975 岡本 勲「ヘボンの日本語観—助動詞をめぐって—」(『文学部紀要』10-1、中京大学)
- 32 1975 清水 功「『和英語林集成』について—初版・再版・三版・縮約版比較表—」(『椋山女学院大学研究論集』6)
- 33 1975 飛田良文「ヘボンと『和英語林集成』」(ブリタニカ編『英語事始』、エンサイクロペディア・ジャパン・インコーポレーテッド)〔1976年、日本英学史学会編となる〕
- 34 1975 飛田良文「日本最初の和英辞典『和英語林集成』の編者ヘボン」(『新日本語講座』9、汐文社)
- 35 1977 飛田良文「和英語林集成」(佐藤喜代治編『国語学研究事典』、明治書院)
- 36 1977 松村 明『近代の国語—江戸から現代へ—』(桜楓社)〔29. 収録〕
- 37 1981 塩澤和子「和英語林集成・英和の部の訳語」(『国文学論集』14、上智大学)
- 38 1983 米川明彦「『和英語林集成』再版の英和の部の漢語」(『日本語学』2-1、明治書院)
- 39 1983 菊地 悟「『和英語林集成』「英和の部」の性格」(『文芸研究』103)
- 40 1983 菊地 悟「『和英語林集成』第三版「英和の部」の増補訳語」(『国語学研究』23、東北大学)
- 41 1984 菊地 悟「『和英語林集成』第三版「英和の部」における漢語の増補—初版・再版・三版「英和の部」および初版・再版「英和の部」の語彙との関係—」(『国語学研究』24、東北大学)
- 42 1984 李 漢 燮「初版・再版・三版対照和英語林集成」(私家版)
- 43 1986 李 漢 燮「『和英語林集成』の「英和の部」の増補をめぐって」(『論集日本語研究2 歴史編』、明治書院)
- 44 1987 望月洋子『ヘボンの生涯と日本語』(新潮社)
- 45 1988 坂本浩一「『和独対訳辞林』に於ける見出し・同義語表示部の検討『和英語林集成』

を交えて」(『語文研究』65、九州大学)

- 46 1988 菊地 悟「『和英語林集成』第三版「英和の部」新出語彙の典拠について」(『生活学園短期大学紀要』11)
- 47 1989 杉本つとむ『西洋人の日本語発見—外国人の日本語研究史1549~1868—』(創拓社)
- 48 1989 坂本浩一「『和独対訳辞林』注記部に関する検討『和英語林集成』との異同状況から」(『語文研究』66・67、九州大学)
- 49 1989 岡本 勲「辞書と近代日本語 ヘボン『和英語林集成』を中心として」(『日本語学』8-7)
- 50 1991 佐野摩美「『和英語林集成』が『言海』の語義分類に与えた影響」(近代語研究会編『日本近代語研究』1、ひつじ書房)
- 51 1991 菊地 悟「『和英語林集成』初版「英和の部」の「和英の部」非収録語彙」(『国語学研究』31、東北大学)
- 52 1991 江崎裕子「『和英語林集成』(「和英の部」)と『東海道中膝栗毛』」(『ICU Language Bulletin語学研究』Vol.6, No.1 International Christian University The Division of Languages)
- 53 1992 飛田良文『東京語成立史の研究』(東京堂出版)〔3.4.5.13.16. 改稿収録〕
- 54 1993 江崎裕子「『和英語林集成』「英和の部」の用例と『南総里見八犬伝』」(『ICU日本語教育研究センター紀要』3、国際基督教大学日本語教育研究センター)
- 55 1994 森 温子「J.C.ヘボン『和英語林集成』初版・再版・三版の形容詞」(『玉藻』30 フェリス女学院大学)
- 56 1995 飛田良文 ヘボン『和英語林集成』(『国文学解釈と鑑賞』60-5)
- 57 1996 飛田良文・菊地 悟『和英語林集成 初版 訳語総索引』(笠間書院)